

私のベトナム史研究

学術俯瞰講義のまとめにかえて

2010年1月25日

古田元夫

※:このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。

ベトナムへの関心(学生時代)

- ベトナム戦争世代のベトナム関心
- 世界史的問題の焦点としてのベトナム
- 戦争と平和、植民地支配と民族解放、社会主義と資本主義...
- ベトナム戦争 世界はベトナムを中心にまわっている
- ベトナムを理解できれば世界はわかる？
- ベトナム戦争世代に多い日本のベトナム研究者



なぜベトナムを選んだのか？

- 当時の東京大学
- 文学部東洋史 山本達郎先生
- 漢文史料を使ったベトナム前近代史研究
- ベトナム近現代史は専門家はいない
- ベトナム語の授業もない
- 価値観の転換
- 大国に対する小国の抵抗、黒人、少数民族、女性の権利主張
- ベトナム戦争の時代・・・弱者を擁護する視点をもった現代民主主義の成立期
- SMALL IS BEAUTIFUL !

「歴史とは現在と過去との対話である」(E. H. カー)

- ベトナム史への関心・・・ベトナム戦争という当時の状況に起因
- ただし、多くがベトナム戦争研究者になったわけではない
- ベトナム戦争－フランス植民地時代のベトナム－独立王朝時代のベトナム－中国支配時期－青銅器時代－考古学者へ

異質な他者としてのベトナム

- 民族解放運動の旗手、社会主義ベトナム…普遍的な価値の担い手としてのベトナム、ベトナムを異質な他者として見る視点なし
- 衝撃だった現地体験
 - ベトナム政府お雇い外国人(日本語講師)としてハノイ滞在
- 「在留邦人」12人の時代
- 旧来の社会主義モデルの人々の生活からの乖離、政府の統制に服さず勝手な方向を向いて走りまわっている人々の活力
- ベトナムの個性への開眼…地域文化研究としてのベトナム研究のスタート
- ベトナムの土のにおいがするベトナム研究



出典:Tranh Đông Hồ

「いま、ここ」と「あのとき、あすこ」 時間的、空間的制約を超える思考

- 「ここ」と「あすこ」は、世界を容易に旅できるようになった今日、比較的体験しやすい
- 1980年代 中国を旅行した日本人学生・・・バスや列車に乗る時に並ばない中国人＝「異質な文化」を体験？
- 1950年代の日本・・・すざまじかった上野－青森の年末の帰省列車
- 日本 生活史でいえば安土桃山時代～1950年代までと1960年代以降の隔絶大
- 時間軸での「異質な他者」を知っていることの重要性

史料収集の困難さ

- 現地でも困難だったベトナム人との接触／フィールドワークは不可能
- 入手できる情報 実態からは乖離した公式見解
- 図書館 コピーは不可能、筆写のみ
- 現代史の一次史料に外国人が接近できるようになるのは1990年代以降
- しかし資料は無数に存在した
- ベトナム現代文学の主要作品の読み漁り
- 有力な情報源としての古本屋の親父、「発禁」の意味
- ベトナム人の生活感覚にそった歴史像の構成



無味乾燥した公式文献も よく読めば重要なメッセージがある

- 1991年6月ベトナム共産党第7回大会政治報告
- われわれは平和共存の諸原則を基礎として、政治・社会体制の相違にかかわらず、すべての国と平等・互恵の協力を行う。終始一貫してソ連との連帯・協力を強化し、ベトナムとソ連それぞれの利益にかなうように、協力関係のありかたを刷新して、効果を高める。…

ベトナム戦争期の アメリカのベトナム研究

実学としてのベトナム地域研究

- 社会・人文科学の一般法則があてはまらない地域
- かつ自国にとっての戦略的意味が大きい地域
- 典型的には敵国研究 日本研究、ソ連研究、ベトナム研究
- アメリカのベトナム研究における1975年の断絶
- ベトナム戦争末期にはかなり良質のベトナム研究、大学院生も多数
- 国防総省、軍事研究と密着していた民間財団からの助成の打ち切り
- 大学でのベトナム研究に壊滅的打撃、院生はオーストラリアやカナダへ



「虚学」としての日本のベトナム研究

- 歴史学が主流(漢文資料)
- 1975年当時はベトナム現代研究は緒についたばかりだったが、断絶なし
- 1998年 ハノイで史上初の全世界のベトナム研究者が集まったのベトナム学会議、外国からの参加者300名、日本から50名
- 日本ベトナム研究者会議 会員100名
- 地域文化研究の強み



「虚学」の「実用性」

- 政府間関係、経済関係に先行して形成された研究者の信頼関係
- 日越関係好転の契機となった90年ホイアン国際シンポジウム
- 朱印船貿易時代の日本町の存在した港
- 東南アジアの古い貿易港の景観を残す町並み
- 町並み保存運動(日本の支援) ユネスコの世界遺産に
- 日本の援助政策・・・研究成果を反映



出典

http://ja.wikipedia.org/wiki/ファイル:Chua_Cau_Japanese_Bridge.jpg
(2010/05/07)

歴史学の「実用性」

- アンリ・ピレンヌ(1862～1935)ベルギーの歴史家
- 第一次世界大戦交戦国がもっとも「徴用」した学問・・・化学と歴史学
- 化学 爆薬と毒ガス
- 歴史学 総力戦の基礎となる国民としてのまとまりの根拠と戦争の大義名分を提供

ベトナム1945年大飢饉①

- 1944年秋から45年夏にかけての天候不順
- 飢饉のピークは45年1月～4月
- 被害規模・・・ベトナム民主共和国独立宣言(1945年9月2日)では200万人
- クアンチ省以北のベトナム北部(当時の総人口は1300万人強)

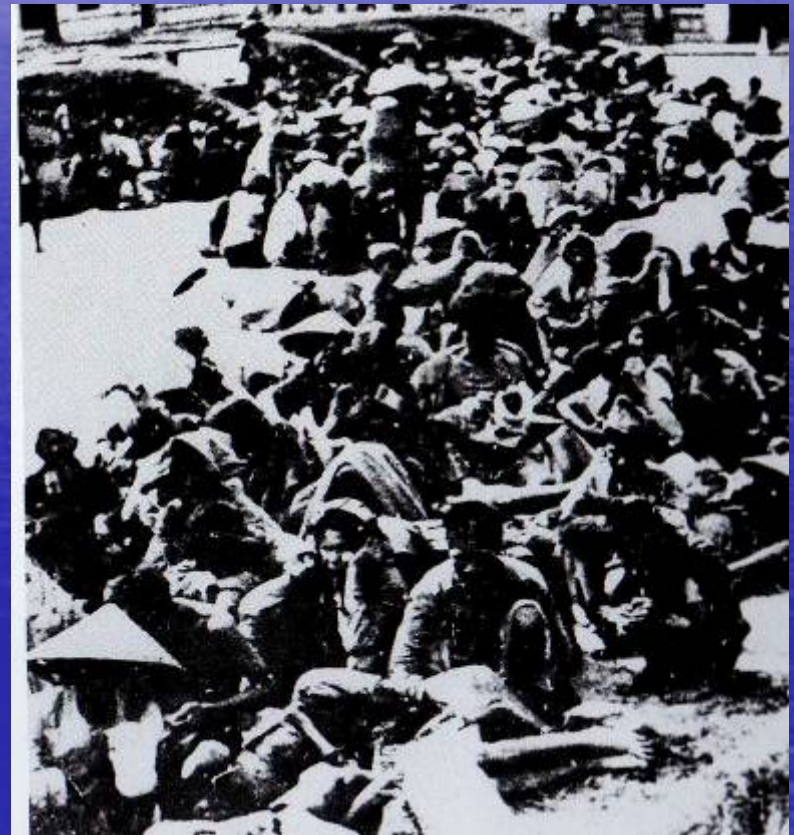


Võ An Ninh 氏撮影

ベトナム1945年大飢饉②

飢饉の原因

- きわめて脆弱なベトナム北部の農業(特に紅河氾濫原、新デルタ、海岸地帯)
- 天候不順
- 米の強制買い付け制度(北部では1943年から実施)
- ジュート、ヒマへの転作による穀物栽培の減少
- 南からの米の移入の途絶(米軍の爆撃による)



Võ An Ninh 氏撮影

ベトナム1945年大飢饉③

- 政治的大変動
- 飢饉を一貫して記録した政権なし

1945. 3. 9 日本軍「仏印
処理」 8. 15日本降伏 9.
2 ベトナム民主共和国独
立宣言、その後 長い戦争
1950年代の日本と南ベトナム
の賠償交渉

南ベトナム 飢饉被害100
万程度 日本 30万

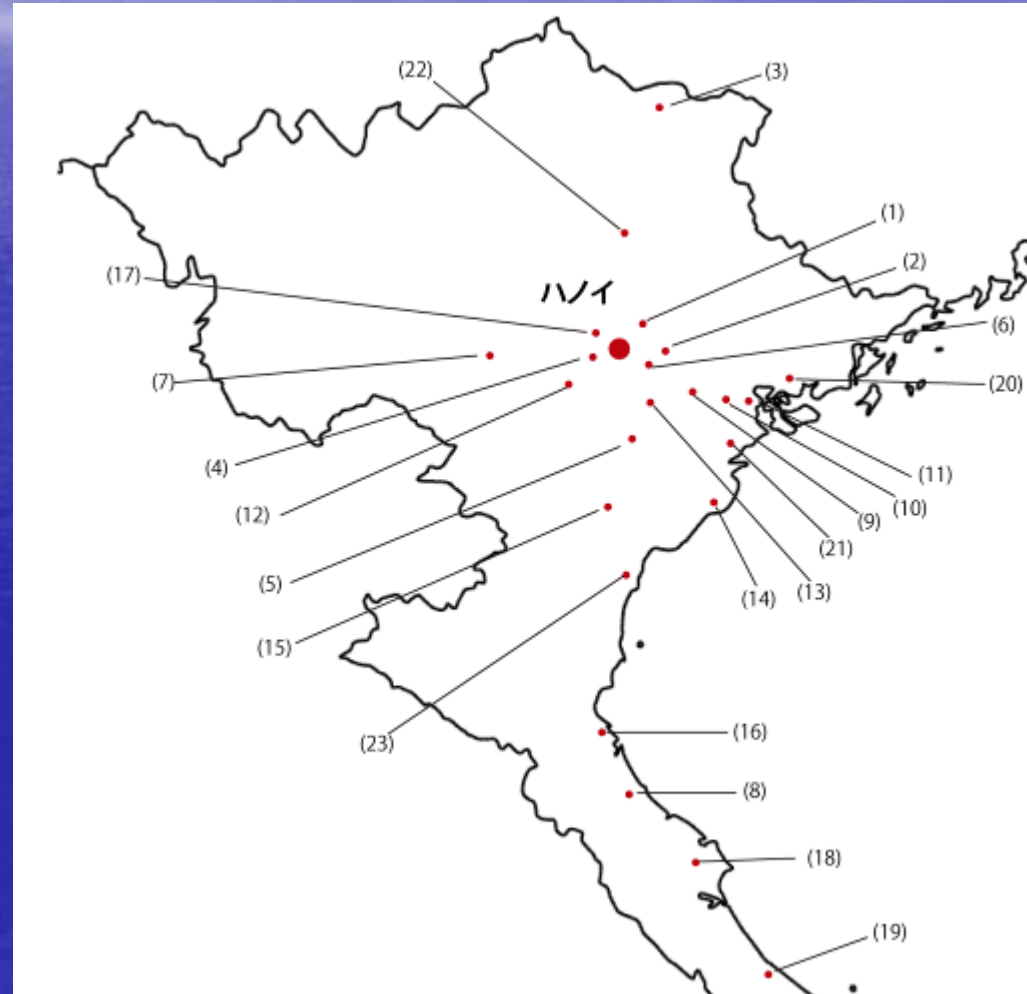
北ベトナム 独立宣言で200万



Võ An Ninh 氏撮影

日越共同調査①

- 調査方法
- 何人も否定できないような飢饉の実態の復元
- 面ではなく点を調査・・・ベトナム北部の飢饉発生地域を各省ごとに典型的と思われる村を一つ選んで調査
- 総人口、世帯構成、世帯ごとの経済状態、世帯ごとの餓死者の数
- 当時の状況を記憶している老人の回想の収集
- 調査期間と成果
- 1992年夏から95年春まで・・・ベトナム北部23カ村
- ベトナム歴史研究所『ベトナムの1945年飢饉 歴史的証拠』1995年8月



ベトナム北部23ヵ村での1945年飢饉の被害状況

村落名(45年当時の省名)	村落総人口(人)	餓死者(人)	死亡率(%)
(1) カーリー(バクザン)	1,300	162	12.46
(2) ズオンフック(バクニン)	1,473	372	25.25
(3) ニュオンバン(カオバン)	430	36	8.37
(4) ラケバック(ハドン)	652	177	27.15
(5) ビンチュン(ハナム)	1,398	638	45.64
(6) コビ(バクニン)	2,401	234	9.75
(7) ゴニャンハー(フクイエン)	580	147	25.34
(8) タイックモン(ハティン)	1,943	215	11.07
(9) ニュティン(ハイズオン)	2,403	351	14.61
(10) チライ(ハイフォン)	329	80	24.32
(11) クアンムック(キエンアン)	2,052	1,206	58.77
(12) イエンクアン(ホアビン)	1,104	207	18.75
(13) フォントン(フンイエン)	792	180	22.73
(14) ドンコイ(ナムディン)	1,395	781	55.99
(15) タイイエン(ニンビン)	494	189	38.26
(16) ランチュン(ゲアン)	869	293	33.72
(17) フォンノン(フート)	523	70	13.38
(18) トーグア(クアンビン)	1,391	600	43.13
(19) カムフォ(クアンチ)	1,237	164	13.26
(20) ブイサー(クアンイエン)	524	382	73.9
(21) ルオンフー(タイビン)	1,379	594	43.07
(22) ドンクアン(タイグエン)	339	66	19.47
(23) トウフー(タインホア)	1,141	217	19.02

日越共同調査②

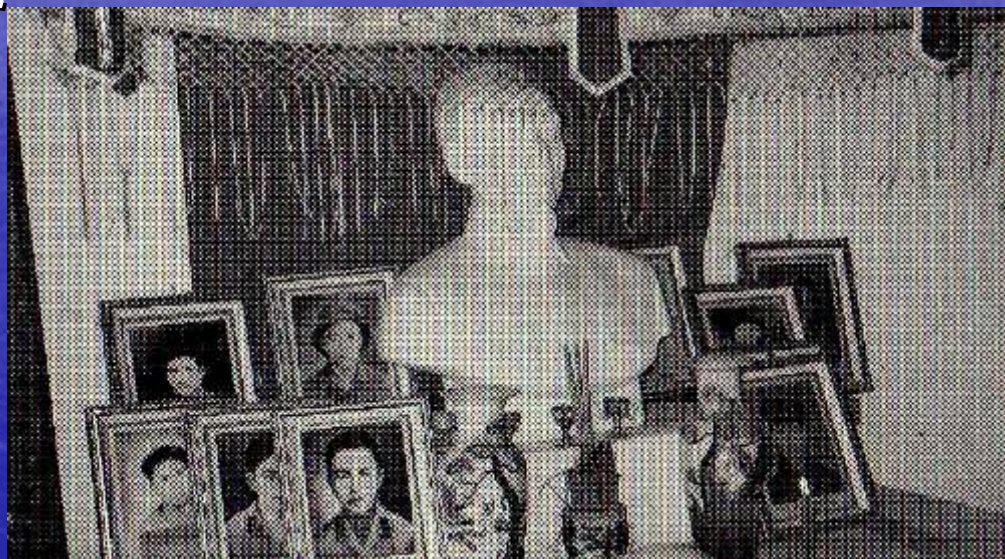
- 1. 飢饉の被害の広域性
- 2. 飢饉の被害の深刻さ
- 3. 飢饉の被害の地方的多様性
- 参考文献・古田元夫「戦争の記憶と歴史研究」小森陽一・高橋哲哉編『ナショナル・ヒストリーを超えて』東京大学出版会、1998年

証言をめぐる①

- 客観的事実にできるかぎり接近しようとする試み
- 古老の証言(部落の各世帯の構成、飢饉時の死者)、その相互チェック
- 史料実証主義・・・利害を離れて虚心坦懐に史料を読めば客観的な歴史像は自ずとその姿をあらわす
- 史料作成者(証言者)と史料の読み手(研究者)の位置拘束性
- 書き手—史料—読み手—事実
- 証言者がどのような状況で語り、研究者がどのような立場でそれをまとめたか、を問題として自覚

証言をめぐって②

- 証言者は政治教育を受けた結果の「公式の語り」をしているのでは？・・・戦争犠牲者「烈士」としての顕彰、公式の語り、45年飢饉・・・語られざる記憶・・・家族・知人以外に話すのは初めて



写真出典：
住村欣範「ホー伯父さんを担ぐ」
『ベトナムの社会と文化』第2号
風響社、2000年、245ページ

証言をめぐって③

- 調査者のポジション
- 日本人の研究者としてか1歴史研究者としてか 農民対研究者+ベトナム人对日本人
- 日本とベトナムの間の認識の格差を狭める
- 「日本人のくせに」・・・「日本人だからこそ」
- 多くの日本人に説得力のある材料を提供したい
-

客観的歴史的事実などは存在しないか？

- 位置拘束性の過度の強調・・・それぞれの人の歴史、歴史的事実などは存在しない？
- 客観的な事実に可能なかぎり接近しようとする努力 この立場を共有していれば対話が成り立つ
- 三省堂『世界史B』
- ヴェトナム北部では大量の餓死者が出た

最近の日本のベトナム研究

- 研究分野の多様化
- 経済、社会、文化、
- 環境、自然…
- それ自体は歓迎すべきこと
- The Vietnamを論じていた時代から、ベトナムの政治、ベトナムの経済などが個別に論じられる時代に
- ベトナムという視点がないような研究には疑問



出典

http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Áo_dài,_Hồ_Gươm_2.jpg
(2010/05/07)

ベトナムの魅力ー異質なものの並存 とゴチャゴチャの活気



出典

http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Ho_Chi_Minh_City_street_2.jpg

<http://commons.wikimedia.org/wiki/File:TPHCM-Motorcycle.JPG>

(2010/05/07)

ドイモイ

社会主義と資本主義の並存

- 政治面 社会主義志向を堅持、共産党の一党支配体制
- 経済面 市場原理、対外開放、資本主義導入
- 中国の改革・開放と同一の性格
- 社会主義志向市場経済—経済発展に伴い拡大する貧富の格差をどの程度是正できるか



アオザイの歴史

- 伝統的な女性の衣装は腰巻
- 18世紀に中国的な「雅」をよとした王様が導入
- 19世紀に普及
- フランス植民地時代に近代的ファッションに改良



出典

Wikipedia commons(2010/05/07)

http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Mot_so_kieu_ao_dai_le_hoi.JPG

G

最近のアオザイ



出典

http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Mai_Phuong_Thuy_Vietnam_Festival_2008_in_Japan.jpg

http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Hai_thieu_nũ_mặc_áo_dài.jpg

(2010/05/07)

普遍？

著作権処理の都合で
この場所に挿入されていた
アオザイを着た女性の写真
を省略させていただきます。

それでも私はホー・チ・ミン研究

